

平成22年度  
農村環境の広域的な保全に向けた  
構想づくりガイドブックの  
策定について

農村振興局

平成22年4月20日

農林水産省

# 第1章 農村環境の広域的な保全の基本的な考え方

## 農業農村整備事業における環境配慮の取組

農業農村整備事業は、農業生産基盤等の整備を通じ、二次的自然である農村環境を健全な状態に維持・保全するとともに質的な向上を図り、従前の環境の再生や新たな環境の形成に寄与。

農業農村整備事業の実施に当たっては、これまで水路整備、ため池整備、農道整備、ほ場整備(水田・畑)などにおける環境配慮対策を進めるとともに、造形的な調和を中心に景観配慮の取組を推進。

このような中、国営土地改良事業については、農村環境を保全・形成する上で大きな契機となるものであることに鑑み、「環境との調和への配慮に関する計画(環境配慮計画)」を作成し、地域全体の農村環境の保全について、その理念・目標・ビジョンを明確にし、実現に向けた実施プロセスを明示することで、広域的な視点からの環境配慮の取組を推進。

### 【事例】農村の環境保全の理念や目標を明確にした広域的な地域整備構想 ＜国営いさわ南部地区（岩手県奥州市胆沢区）＞

#### 環境配慮の取組等の経緯

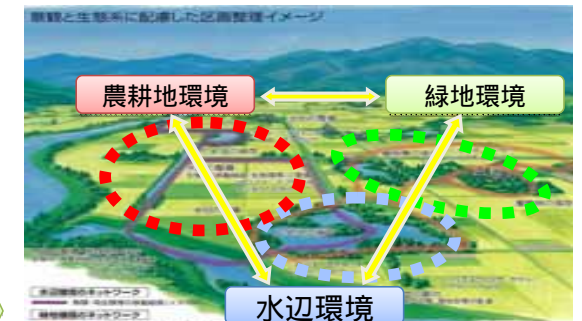
- ・H13年 「土地改良法」の改正
- ・H13～ 環境配慮の手引きの16年 策定
- ・H18年 「生態系配慮の技術指針」の策定
- ・H18年 「景観配慮の手引き」の策定
- ・H19年～ 国営事業における「環境配慮計画」の作成

胆沢平野は、持続的な農業と散居集落が形成する美しい田園景観をもつ地域であり、国営事業による農地の再編整備の実施に当たり、地域の水田等がもつ「農耕地環境」、屋敷林、河畔林等がもつ「緑地環境」、排水路、ため池等がもつ「水辺環境」の保全を基本理念として、地域住民が一体となった地域整備を展開。

多様な環境が織りなす美しい散居集落

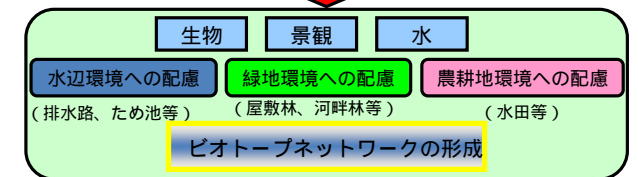


#### 農村の環境保全の理念



基本テーマ

- 田んぼの住人と共生するほ場整備 -



環境に配慮した管理、営農方法の採用

豊かな農村と持続可能な農業の展開

#### 国営農地再編整備事業「いさわ南部地区」

受益面積: 1,100ha

予定工期: 平成10～22年度

事業概要: 区画整理 1,090ha  
農地造成 10ha等

## 「農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりガイドブック」の背景と目的

### 【農村環境の保全とそれを活かした地域づくりの推進】

近年、農業農村整備事業やそれを契機とした地域の環境保全に係る取組を通じて、農村環境の保全とそれを活かした地域づくりの取組が進められている事例が生まれている。

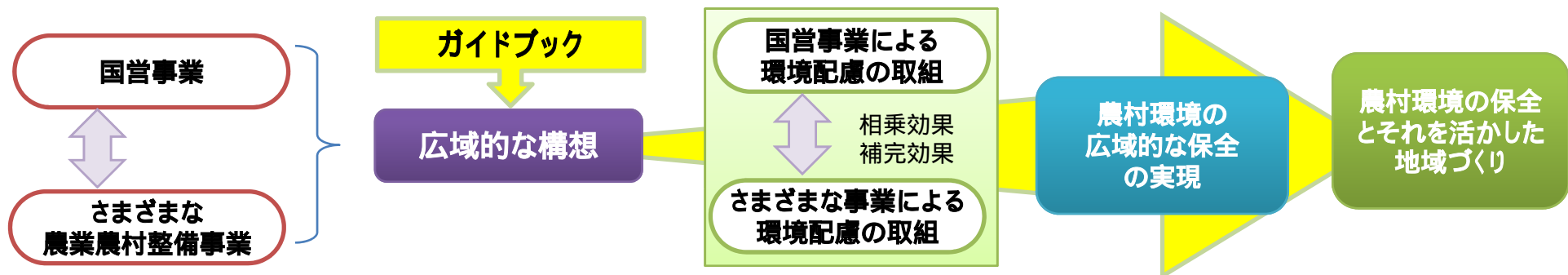
このため、広域的なエリアでの農業農村整備事業等の実施を契機に、生産基盤の整備と併せた豊かな生態系・生物多様性の保全や美しい景観の形成など農村環境の広域的な保全の取組とそれを活かした地域づくりの取組を一体的に推進していくことが必要。

### 【農村環境の広域的な保全とそれを活かした地域づくりの構想の必要性】

農村環境の広域的な保全とそれを活かした地域づくりを進めていくため、広域的なエリアでの農業農村整備事業等を実施する際、農村環境の保全とそれを活かした地域づくりの目標・ビジョンや各主体の役割分担などを内容とする構想を策定し、総合的な取組を展開することが重要。

### 【農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりガイドブックの位置づけ】

本ガイドブックは、広域的なエリアでの農業農村整備事業等を契機に、農村環境の広域的な保全とそれを活かした地域づくりを進めるため、農村環境の広域的な保全に向けた構想づくりに必要なプロセスや手法に係る基本的な事項を取りまとめたもの。



## 第2章 農村環境の広域的な保全に向けた構想づくり

### 構想づくりに必要なプロセスと手法

構想づくりに当たっては、広域的な地域で共有する目標・ビジョンを設定し、その実現に向けた実現プロセスを構想として共有し、各主体が役割分担に応じた取組を総合的かつ計画的に推進していくことが重要。

目標・ビジョンの設定に当たっては、広範囲にわたる既存情報を効率的に収集、整理し、地域の特徴ある環境要素を抽出することが必要。

農村環境の広域的な保全とそれを活かした地域づくりを進めていくためには、様々なコミュニケーションを通じて、参加の促進や合意形成を進めていく必要。

